

時



ならごよみ 奈良暦

神主・奈良県立大学客員教授

岡本彰夫

AKIO OKAMOTO



おかもと・あきお | 1954 (昭和29)年奈良県生まれ。國學院大學文学部神道科卒業後、春日大社に奉職、春日大社権宮司(2015年退職)。奈良県立大学客員教授、宇賀志屋文庫庫長。著書に『大和古物散策』『大和古物漫遊』『大和古物拾遺』(ペリカン社)、『神様にほめられる生き方』(幻冬舎)、『神様が持たせてくれた弁当箱』(幻冬舎)、『大和のたからもの』(淡交社)など多数。

そもそも暦の発刊は王権に属し、天皇の命に依る暦は、宮廷の陰陽寮が管掌した。古くは暦・天文の両道は賀茂氏が得意とするところであった。

『今昔物語』に依ると賀茂忠行は、古今希なる陰陽師と称えられている。殊に箱の中に何が納められているかを占って当てる「射覆」の技に優っていたという。その子保憲も幼時より秀でた素質を有していた。加えて弟子となった安倍晴明の資質を見抜き、子には陰陽道を、清明には暦道・天文道の秘奥を全て伝授して、以後陰陽寮は安賀両家(安倍氏と賀茂氏)で守られてきた。賀茂氏の本流は文安2年(1445)に勘解由小路と名乗り(ただし4代で絶家、藤原氏日野流の勘解由小路家とは全く別、至徳元年(1384)

に安倍氏本流は土御門を名乗って共に栄えたが、豊臣秀吉の頃にはほぼ断絶し、代々伝来の文書・記録も散逸してしまったという。しかし土御門久脩が細々と命脈をつなぎ、その子である泰重の代になって、奈良に移って、春日・興福寺、東大寺等々奈良の社寺の陰陽師を勤めていた賀茂氏の支流を呼び寄せて、陰陽頭とした。(幸徳井という井戸の側に住んだことにより、この井の名を姓という)

この幸徳井という家について説明しておく、安倍氏庶流の安倍友氏の次男友徳(明徳2年生)は賀茂定弘について陰陽道を学んでいたが、応永26年(1419)定弘の養子となって賀茂友幸となり、後に奈良へと移住。以後維新まで25代を数えた。陰陽頭に任じられたのは9代友景

で、時に元和4年(1618)のことであった。因みに明治の社会主義者、幸徳秋水はその傍流の子孫だとする説があるようだが、不詳である。元来この家は暦博士であったから、当然造暦に関与する訳で、大和一国に限る売暦の権利を有した。起源は15世紀までさかのぼるとい。江戸期には幸徳井家配下の陰陽師が14家いて、この家々が住んだ所が、現奈良市の陰陽町である。今も「鎮宅靈符社」が祀られているのは、かつての陰陽師が邸内に祀った神社である。かつてその中の一家が伝えてきた史料が売りに出た。県内ではどこにも引き取り手がなく、千葉県佐倉の国立歴史民俗博物館に納まつてしまった事は、今も残念でならない。

